



人づくり・学び舎 代表

浦井 啓子
 Urai Keiko

**すべての人が「働く幸せ」
 を実感できる、
 そんな社会を実現したい**

新 学期からスタートした新しい生活も落ち着いてきました。
 衣替えした娘の制服や、毎晩カエルの合唱をききながら初夏の訪れを感じるこの頃です。

【人づくり・学び舎新聞】は、多くの方に「キャリア」や「キャリア教育」の意義と必要性を感じていただけたらという思いで、これまでの活動内容を中心に発行しています。

皆様に3号（夏号）をお届けできますことをとても嬉しく思います。

キャリア教育 × レポート

なぜ学ぶのか？

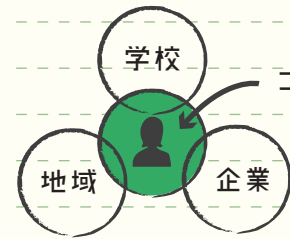
この学びは何につながっているのか？

キャリア教育を行う目的は、一人一人が社会的・職業的に自立するために必要な能力や態度を育み「一人一人のキャリア形成と自己実現」のためです。



学校、地域、企業が繋がることで、変化する社会の動きを取り込み、世の中と結びついた授業を通じて子供たちがこれからの人生を前向きに考えられるように、発達段階に応じて地域や社会と関わり、様々な職業に出会い、社会的・

職業的自立に向けた学びを積み重ねていくことが、これからの「学びの鍵」です。(参照:長田徹・清川卓二・翁長有希、2017「新時代のキャリア教育」東京書籍)そして学校と企業と地域を結ぶ役割を期待されているのが【キャリア教育コーディネーター】です。



キャリア教育
 コーディネーター
 〈結ぶ役割〉

※キャリア教育コーディネーターとは
 地域社会が持つ教育資源と学校を結びつけ、児童・生徒等の多様な能力を活用する「場」を提供することを通じ、キャリア教育の支援を行うプロフェSSIONALである。常に学校や児童・生徒等の現状を理解し、キャリア教育コーディネーターとして一定の知識・技能習得後も自ら学び成長し続けていく努力を怠らず、我が国のキャリア教育の発展に努める。(経済産業省『キャリア教育コーディネーター育成ガイドライン』より抜粋)

カウンセリングの手引き

Q. 自分には長所と言えるところがありません。

A. 長所と短所は表裏一体の関係です。多くの方が自分の短所ばかりに目がいきがちですが、短所であるところは見方を変えれば長所になることが多いのです。

具体的に言うと、自分のことを「何事も長続きしない」と思っている人は、いろんなことに興味関心を持ち好奇心旺盛である場合が多く見受けられます。同様に「積極的でない」と言う人は「慎重」な人であったり、「自分の意見が言えない」と言うとき「協調性が高い」場合もあります。自分自身のもつ性質の良い面に着目すれば長所となり、悪い面に着目すれば短所となります。ですから長所がない人はいません。

自分のもつなんらかの性質がいずれかの場面において良い面を発揮することができれば、それは十分長所となります。

授業の1コマ ～何のために働くのか？～

キャリアを形成する上で《働く意味》について考えることはとても大切です。自分なりの答えをしっかりと考えてもらいたいと思い「なんのために働くのか」という質問を投げかけます。漠然とした思いで行動するのか、目的を考え行動するのか、その違いはとても大きく結果に左右します。まず一旦立ち止まって考えるところから、自分自身のキャリアを考えてもらうようにしています。

私が大学生の支援をしていて感じるのは、学生と社会の間の大きな壁です。今の学生にとって「社会へ出る」ことは、私たち大人が考えている以上に難しい課題となっています。就職活動が始まる直前になって初めて働くことについて考え始める学生が多く、成長段階に応じた職業観や勤労感が育まれていないことが懸念されます。



活動報告

福野中学校様 職業セミナー

中学2年生へ向けて「仕事の意義や、やりがいについて考える」という趣旨で毎年開催されている職業セミナーに、今年はCANメンバーも講師として参加しました。

■ 川田真紀 (看板屋)

看板自体は日常的によく目にしても、実際の看板屋の仕事の内容や流れなどはわかりにくいということで、実際に使用するシートや看板も見せながら説明しました。

仕事を選んだきっかけは、お母さんの仕事のお手伝いをしたこと。身近で働く大人（親）と自分自身が将来働く姿を重ね合わせ、ご自身の仕事を選んでいったということではないでしょうか。他にも、仕事を始めてからも夜間学校に通って勉強していた、という話があり、その時の勉強が今の仕事に生きていることから「学ぶことの大切さ」についても学生の皆さんに語りかけました。

■ 片山諭志 (書家)

元公務員から書家への転身という異色の経歴をもつ自身の経験から、「世間でいう安定的な仕事と自分がやりがいや楽しいと思える仕事は違う」ということを実体験を交えて話しました。

作品が生まれるまでには、コツコツと何枚も書き続ける地道な作業があり（部活などの練習と同じで）頑張った先には嬉しい気持ちも待っていることや、努力できる、価値についても伝えました。

また、初の香港での個展開催に合わせて新聞やテレビで番組で紹介されたことを通じて多くの方に応援してもらうことができました。（現在も開催中）

今の中学生が大人になる頃には、世界へ繋がる仕事をするのがあたり前にあるかもしれません。そのような体験談を直接聞ける機会は、自らの将来を考える上でも貴重な経験になったのではないのでしょうか。



講師紹介 no.3

「好きを仕事にする わくわくを伝えたい！」

看板屋/まきあど

川田 真紀
Kawada Maki



南砺市才川七生まれ。屋外広告士。高岡工芸高等デザイン科卒。
看板屋「まきあど」を営む個人事業主。
なんとときくぱりプロジェクトリーダー。
映画の看板が描きたくてこの道に入る。
ペンキで丸が描けなくて泣きながら練習し、ある日できるようになる。
幼いころから大好きだった絵を描くこと。
大好きな誰かの想いをデザインで伝えること。
「好き」を仕事にして、ワクワクする生き方を伝えます。

Information

【道 Project】では、講師派遣を行なっています。

学校などの趣旨に合わせてご希望の講師を選んで頂き、授業・学年集会・PTA 活動、各種組合団体、会社などに講師を派遣いたします。スケジュールやご予算など、気軽にご相談ください。

様々な職業の大人が講師となりそれぞれが歩む道（仕事）についての内容、そこに懸ける思い、志、あり方などを授業・講演を通じて広く伝えます。

進路を考え始める年齢の生徒や学生たちに新しいきっかけや価値観を提供することが私たちの願いです。